資料 放-17-1

情報通信審議会　情報通信技術分科会　ITU 部会

放送業務委員会（第 16 回）議事概要（案）

日時：平成 27 年 1 月 28 日（水）14:00～15:25
場所：総務省 共用 10 階会議室

２出席者：
　都竹主査（名城大学）
　伊丹主査代理（東京理科大学）
　上原専門委員（NTT 未来ねっと研）、浦野専門委員（日本テレビ）、大寺専門委員（民放連）、
　河合専門委員（TBS テレビ）、川口専門委員（テレビ朝日）、滝嶋専門委員（KDDI 研究所）、
　西田専門委員（NHK 技研）、春口専門委員（NHK）、山内専門委員（NHK 技研）

関係者：
　久代氏（NHK）、津田氏（NHK）、成清氏（NHK 技研）
事務局：
　総務省 情報流通行政局 放送技術課
　　久恒 課長、諏訪 課長補佐、五十嵐 国際係長、原 官

配付資料：
資料 放-16-1　：放送業務委員会（第 15 回）会合議事概要（案）
資料 放-16-2　：2015 年春期 ITU-R SG6 関連会合の概要
資料 放-16-3　：放送業務 WG における検討結果
資料 放-16-4　：外国寄与文書審議表（案）一覧
資料 放-16-5　：日本寄与文書（案）一覧
資料 放-16-6　：ITU-R SG6 関連会合への対処方針（案）
資料 放-16-7　：今後の検討スケジュール（案）
参考資料 1　　：放送業務委員会構成員名簿
参考資料 2　　：ITU 部会における委員会の設置及び運営について

議事概要

1.　配付資料の確認

事務局から配付資料の確認を行った。

2.　主査指名の紹介他

ITU 部会にて都竹専門委員が放送業務委員会の主査に指名された旨の説明が事務局よりなされた。続いて、参考資料２「ITU 部会における委員会の設置及び運営について」に基づき、都竹主査より、伊丹専門委員が主査代理として指名された。

3.　前回議事概要の確認

資料 放-16-1「放送業務委員会（第 15 回）議事概要（案)」について、修正があれば別途事務局へ連絡することとなった。

4.　2015 年春期 ITU-R SG6 関連会合への対処について

資料 放-16-2「2015 年春期 ITU-R SG6 関連会合の概要」に基づき事務局から説明がなされた。続いて、資料 放-16-3「放送業務 WG における検討結果」、資料 放-16-4「外国寄与文書審議表（案）一覧」、資料 放-16-5「日本寄与文書（案）一覧」に基づき放送業務 WG 主任である西田専門委員から説明がなされた。なお、今会合の対処から外国寄与文書審議表に関して当該寄与文書への賛否の立場を明確にし、評価をより詳細に行う為、新たに賛否評価指標を取り入れることとした。
質疑は以下のとおり。

4.1.　放送業務 WG における検討結果について

○：WP6C の重要度 B の案件のうち「コンポーネントデジタルスタジオのためのアナログ同期基準信号の勧告改訂草案」が賛否評価 c となっているが、どういった意図か。

○：アナログ信号に係るものは以前より定義されているにも関わらず、一部仕様を追加する文言が加えられている。しかし、当該文言の根拠が不明瞭であることから確認が必要であると評価し「ｃ」となっている。

○：了。

4.2.　日本寄与文書 A1「勧告 ITU-R BT.1774-1 改訂草案の修正『公衆への警報周知、災害の軽減・防止のための衛星・地上放送インフラ利用』」について

○：補足。改訂草案のタイトルに衛星が含まれているため、今回の寄書が承認されれば、同様の内容を WP6A から WP4B(衛星)にも入力する。

4.3. 日本寄書 B1「UHDTV スタジオ信号用デジタルインタフェースの早期 ITU-R 勧告化」について

○：本件に関連して、国際標準となる方式は、本来１つの方式で統一を目指すべきにも関わらず、本勧告のように複数方式を記載することについて検討が必要ではないか、という意見が WG にてあった。

○：Part 2 の Payload ID を 12bit から 10bit にするのとことだが、4word×10bit の 40bit で送信するのか。また、10bit にすることによる影響はあるか。インターネットにおける IP アドレスの例もあったため、ID は少しでも多い方が良く、減らすことに抵抗があるが、他のとの互換性を確保するためであれば納得。

○：Part 1 及び Part 3 においては、Payload ID も含め 10bit / word で規定されている。Part 2 の映像信号についてのみ 12bit / word として扱っているが、他のインタフェースで用いられている Payload ID も考慮して、映像信号についても Payload ID は 10bit で判定しており、下位 2bit は 0 を入れていた。本改訂は、この下位 2bit については Payload ID として規定しないこととするものである。また、Part 2 には既に 10bit から 12bit に変換する方法が記載されているため、影響は出ない。また、Payload ID については送信相手の識別でなく送信内容を示すものであるため、足りなくなることはないと考えられる。

4.4. 日本寄書 C1「拡大ダイナミックレンジテレビシステムのパラメータ値の提案」について

○：EIDR（イー・アイ・ディー・アール）TV と長い名前だが、読みやすい読み方はあるか。また、この表現は日本提案か。

○：特段読みやすい読み方はなく、会合ではそのまま読みで使われている。名称は会合の議論において決まったものである。

○：この表現でオーサライズされたと考えて良いか。

○：変更の可能性は十分ある。この表現は、従来までのものと違うことを示す意図で呼ばれている名称である。

4.5. 日本寄書 C3「レポート ITU-R BS.2159-6『家庭及び放送応用でのマルチチャンネル音響技術』の改訂案」について

○：ダイアログ制御とは何か。

○： 22.2ch を例とした場合、センターチャンネルと言うチャンネルがあるが、このチャンネルを、ダイアログを送るだけのダイアログチャンネルとして使う時に、ダイアログチャンネルの再生レベルをコントロールできる仕組みのこと。

○：MPEG4-AAC の規格を ARIB として独自に拡張したもので、ダイアログ制御用の識別

子をオプションとして追加した。この規格では任意のチャンネルをダイアログとして設定することが可能であり、当該識別子を理解できる受信機は放送事業者が定めたゲインの中で音量の上下を受信機側で可能とする仕組みである。
○：了。

次に、全体を通してコメントを求めた。質疑は以下のとおり。

○：WP6A に入力された外国寄与文書「デジタル地上音声放送とマルチメディア放送への［移行］・［導入］の実装検討の新レポート作業文書」について、日本としてのマルチメディア放送への積極的な寄与が望ましいと説明があったところだが、残念ながら当社はデジタル地上音声放送もマルチメディア放送も行っていない。日本として積極的に寄与していくため、実際にこれらの事業を行っている放送事業者が中心となって取り組むことを検討して頂きたい。
○：今会合への寄与文書入力には間に合わないが、御指摘については当該社に伝えてみる。
○：ISDB-Tmm の勧告化の時は放送事業者が積極的に参加したと記憶している。今回についても同様に V-Low を含めマルチメディア放送を行う各放送事業者に協力頂きたい。今回は本レポートに対する日本からの寄与文書はないが、議論には積極的に参加頂きたい。民放からの出席者はいるか。
○：今後は実際にこれらの放送を行っている事業者に参加して頂きたい。
○：本レポートは、まだ作業文書のレベルであるため、入力は十分可能と考える。
○：本レポートの他にも、地上デジタル放送の導入についてのレポートは既に作成されており、随時アップデートされている。是非日本の経験を入力していきたい。デジタル音声放送、マルチメディア放送についても、ISDB ファミリーとして日本として先導する意味で有効である。
○：積極的な寄与を期待。

次に、資料 放-16-6「ITU-R SG6 関連会合への対処方針（案)」に基づき事務局から説明がなされた。質疑等は特になし

5. 今後のスケジュールについて

資料 放-16-7「今後の検討スケジュール（案)」に基づき、事務局から説明がなされた。